悠遊優
kurashi@373news.com

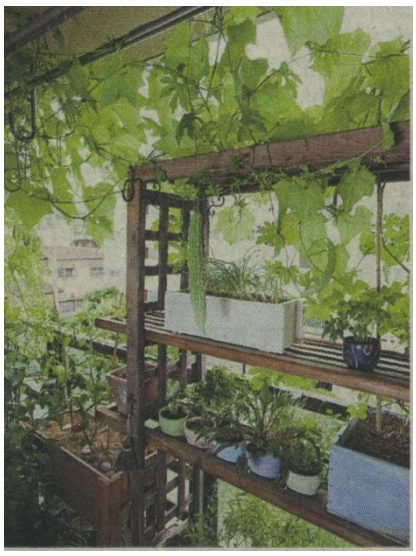
今年こそ緑のカーテン

人気のゴーヤーを育てよう

「摘芯」して枝増やす

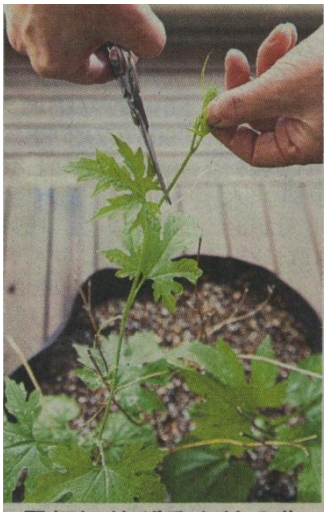
軒先でつる性植物などを育てて直射日光を遮る“禄のカーテン”。昨年の節電の夏に慌てて取り組んだがうまくいかず，今年こそはという方も多いのでは？　ガーデニングクリエイターのたなかやすこさんに，人気のゴーヤーを育てる際のポイントを聞いた。

「ゴーヤーは台風に強いですが，初心者の方には中でも風に強い『あばしゴーヤー』がお薦め。種ではなく苗からが育てやすく，始める時期は全国的にゴールデンウイーク前後がいいです」



苗は，幅４５～６０㌢のプランターに１株。これで掃き出し窓１カ所分のカーテンに育つ。プランターは支柱を固定できるタイプが便利。土は軽くて軟らかい，良質の培養土を使うと，根がしっかりと広がりやすい。

「一番大切なのが摘芯。葉が６，７枚ついたら主枝の先端を切ります。するとゴーヤーが危機感を持って，下にわき芽をいくつも生やします。実を多くつけるのは主枝よりも，この側枝です」



最初に伸びる主枝の先端を切り取る「摘芯」

日差しを遮れる位置にネットを張り，上から３本程度の側枝を横へ伸びるように誘導。成長してベランダの外などへはみ出たら，先端を切ればわき芽が出て葉も増え，光合成が活発になる。

うっすらと白斑が出る「うどんこ病」などの予防には，梅雨前に納豆菌などを水で薄めてスプレーし，成長に応じて適宜繰り返す。受粉は，あばしゴーヤーの場合，人の手で行わなくても済む場合が多いという。

「肥料は始めからやり過ぎず，植物がおなかをすかせ，それでも生きようとする，たくましい力を引き出してから」。１～２カ月は培養土がもともと含んだ養分で育つ。

「実が成り出すと追肥の時機。私は速効性があって光合成を助けてくれるアミノ酸のＡＬＡが入った液体肥料『ペンタガーデン』を，７月ごろか過１回与えています」。夏の水やりは毎日。毎日が無理な場合は，土の量を多くしたい。

育ったゴーヤーは料理に。秋，黄色くなる前に撤去すれば，ネットに絡んだつるも取りやすい。

平成２４年４月２６日（木）／南日本新聞